



Vol.84

ゆうこみやゆき

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソッコ de ソッコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソッコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ
アイヌの晴れ着あれこれ



村木美幸
(アイヌ民族
文化財団理事)

近年、アイヌ文化を
紹介する催し各地
で開かれていて、伝統
の儀礼やアイヌ舞踊も目にする機会も増
えていますよね。独特な世界観、アイヌ文様
の衣装も素敵で魅かれますよね。

刺繍などの文様のあるアイヌ衣服の殆ど
は晴れ着で、古くは本州や大陸から移入さ
れた絹製の衣服や木綿布にアイヌ自身が
文様を施すものなどいろいろあります。ア
イヌ衣服の男女の別は仕立てや文様によっ
て分けることは出来ないのですが、絹製の
紋付や小袖、陣羽織、蝦夷錦などは主に男



イラスト/ 莊田悠人

性が着るもの、木綿の衣服やアットウシ(樹
皮衣)などの文様のあるものは男女共に着
る晴れ着とされてきました。
アイヌが自製した木綿素材の晴れ着の
文様は大きく四つのパターンがあります。
ひとつは、各地で着られた衣服で、地布に
直接チーンステッチやコーチングステッチ
などで文様が刺繍されるもので、色使いや
文様で地域的特徴がみられます。刺繍線
の太い、細いで男女の別がある地域も。も
うひとつは、主に道南の太平洋沿岸、白老
から室蘭、虻田、八雲などで着られた衣服
で、地布に絹や綿、更紗など色とりどりの
細いテープ状の布を置いて、その上から刺



繍したもの。江戸の中期頃のものもあり、
木綿衣の中でも古くからつくられてきた
文様とされています。もうひとつは、主に
日高地方で着られた衣服で、衣服全体に
文様を切り抜いた白布を縫いつけ、その上
から刺繍したもの。同じ文様でも布の切り
抜き幅の狭い、広いで地域の特徴が分る
ともいわれ、大幅の布が生産されるよう
なつづけられた比較的新しい文様の衣服
だと考えられています。もうひとつは、綿
や柄、無地の地布に黒や紺色の木綿布を
置いて、その上から刺繍を施したもので、
布幅や文様によって地域の特徴をみるこ
とができる他、平取地域では胸元の文様の
有無で男女の差があるという報告も。
などなど、アイヌの晴れ着についてあれ
これ紹介してきました。刺繍文様のもつ美
しさは、アイヌ女性が独自の世界観を発展
させてつくり上げてきたもの。文様からさ
まざまにイメージを膨らませ想像してみ
るのもきっと楽しいですよ。

今回のテーマは「カリンパニー楼」
本田優子(札幌大学教授)
が担当します。



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみやゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。